令和元年度第２回川崎市子ども・子育て会議
計画推進部会　議事録

日時：令和元年８月５日（月）18 時 30 分から 20 時 30 分まで
場所：中原区役所　５０２会議室

■出席者

委　員	（部会長）	田園調布学園大学　教授	村井　祐一氏
		和光大学　教授	一瀬　早百合氏
		川崎地域連合　副議長	稲富　正行氏
		鎌倉女子短期大学　教授	佐藤　康富氏
		鷗友学園　特別顧問	柴田　頼子氏
		洗足こども短期大学　教授	坪井　葉子氏
		専修大学　教授	吉田　弘道氏
所管課	こども未来局児童家庭支援・虐待対策室担当係長		廣岡　真生
事務局	こども未来局総務部企画課長		阿部　克義
	こども未来局総務部企画課担当係長		為我井　直美
	こども未来局総務部企画課担当係長		北村　美幸
	こども未来局総務部企画課担当職員		佐々木　綾也

■議題

（１）「子ども・若者の未来応援プラン」の年度評価について
（２）就学前児童数の推計について

■配布資料

資料１：子ども・若者の未来応援プラン平成 30 年度点検・評価結果報告書(案)
資料２：就学前児童数の推計について

■議事

（１）「子ども・若者の未来応援プラン」の年度評価について
　〇資料１をもとに所管課から概要説明。

＜質疑等＞

【委　　員】施策５の質の高い保育・幼児教育の推進について、平成２９年度の評価において、子ども・子育て会議からの意見・評価に「「保育の質ガイドブック」の周知と現場での活用を進め～」と記載されており、今後の取組に「保育の質ガイドブックの活用などによる人材育成を行い～」と記載されているが、平成３０年度評価の施策５④の「公民の保育所職員を対象とした研修の開催～」に組み込まれているのか。

【事 務 局】そうである。保育の質ガイドブックについては、引き続き研修等において活用している。

【委　　員】資料 17 ページ、こども文化センターに関することで、総合的な評価のところの②で老人いこいの家との連携モデル事業等のことが評価されていているので子ども・子育て会議からもそこは評価してもいいのかなと思われる。
平成２９年度においてもその部分は触れられていので、今回も触れるのは自然のながれではないかと思われる。

【事 務 局】総合的な評価の中では、「連携モデル事業をすべてのこども文化センターで実施するなど」というように記載している。

【委　　員】それでは、「連携が進んだことを評価します」もしくは「連携を進めた取組について評価します」ということで、その取組を評価するという意見を追加していただきたい。

【事 務 局】追加する。

〇所管課から第５章を基に概要説明。

【委　　員】６６ページの「学校教育の推進」という表記はどういう意味か。タイトルとしてもっといい言葉がないのかなと思ってしまう。

【事 務 局】こちらはもともと貧困の調査における調査結果の分析を基に、基本的な考え方をまとめたときに表現したものである。

【委　　員】学校の中で子どもの貧困対策を推進するという取組で、学校分野での貧困対策教育の推進みたいな内容になるのか。

【事 務 局】子どもの貧困対策というのはピンポイントに該当する事業といったものはなく、全ての基盤制度を着実に進めていくことが必要になってくる。学校教育についても貧困対策につながっているものであり、学校教育を適切に推進していくことで、子どもの貧困対策に資する取組となるという意図が組み込まれている。

【委　　員】学校教育というのは教育という前提で考えると、学校における福祉対策みたいなニュアンスがなかなか相入れない概念で違和感がある。

【事 務 局】貧困対策で考えたときに、国では生活保護受給世帯やひとり親世帯がクローズ

アップされているが、そうではなくて予防も含めてというところがこの施策の方向性４には含まれている。母子保健や保育・幼児教育の分野と、小中義務教育を中心とした学校教育分野が、福祉という概念ではなくて、子どもをライフステージに応じて支援していれれば貧困問題の予防となるということをこのパートで表記したところである。

【委　　員】６６ページに「自己有用感」と記載されているが、具体的にどんなことを想定しているのか。自己効力感というのは、自分たちがやったことで自分が効果を確認できるというが、自分が役立つということを有用感と言うのか。

【事 務 局】教育の専門用語という認識をしている。キャリアの在り方生き方教育の目的の１つとしての意味だと思われる。

【部 会 長】自己有用感というのは正規な表現で教育分野でよく使われている。自分も属する集団の中で自分がどれだけ大切な存在であるかという自己有用感は、自分に自信を高め、安易に問題行動に走ることを嫌うというような、他者の存在を前提として自分の存在価値を感じること、誰かの役に立ちたいという成就感、それから誰かに必要とされているという満足感の３つをもって自己有用感とするとされている。

【委　　員】５９ページの子ども・子育て会議からの意見・評価のところで、②の１行目の終わりに表記されている「研修による発達障害者支援の養成等を」というのは、「発達障害者の支援者養成」に修正するほうがよいかと思われる。

【事 務 局】修正する。

【委　　員】１０２ページから始まる項目には小分類というのは概念的にはないということとでよいか。

【事 務 局】そうである。

（２）就学前児童数の推計について

〇所管課から資料２を基に概要説明。

【委　　員】多摩区の下がり方については、他の区と比べて極端に変化しているが、多摩区はなぜこれほど下がってしまうのか。

【事 務 局】女性の 15 歳から 49 歳という範囲を対象としており、一番産むだろう人数が少ないと思われる。

【委　　員】現時点においては、納得できるようなところなのではないか。毎年、実績が加味されて信頼度が補正されていくという特徴が本来はあって、従来よりは大分いいのではないかと感じる。

【事 務 局】今回の計画期間は令和２年から令和６年までの５年分を対象としており、令和６年には、令和７年４月１日の子どもたちが対応できるように量を見込むということなので、令和７年までの数値を出しているというところであるが

実際の計画は令和２年から令和６年の５年分の計画になる。また、令和４年からは、このプランが第２期になるので、令和３年に見直しを行う予定である。

【部 会 長】この手法が有効であれば、今後はこの手法がベースになっていくと思われるし、妥当な数値だと思われるので、我々も期待を込めて事務局案で承認したい。

■閉会

事務局挨拶